

2017年1月15日発行

K



(公社)神奈川県理学療法士会ニュース
The Kanagawa
Physical Therapy Association
News

P

1
2017
January
No.270

http://www.pt-kanagawa.or.jp

A

Kanagawa Physical Therapy Association

○発行 | 神奈川県理学療法士会 ○代表 | 林 克郎 ○編集 | 渡邊 観世子
○発行所 | 〒220-0003 横浜市西区楠町4-12 アーリア20 101号 Tel.045-326-3225/Fax.045-326-3226 E-mail:jimukyoku@pt-kanagawa.or.jp

○会員数
[28.12.1現在] **4,955名**

Contents

P1▶巻頭言 P2▶新年の挨拶 P3▶新人教育プログラム／表彰 P4▶活動報告 P7▶会員ライフサポート部活動報告58報
P10▶会長行動報告 P11▶学会情報 P12▶研修会・講習会 P14▶information P15▶スポーツ現場の独り言 P16▶編集後記／原稿送付先

巻頭言



『発表における自己研鑽と地域内外交流の場に～神奈川県理学療法士学会～』

鎌倉リハビリテーション聖テレジア病院 リハビリテーション部・地域連携事業部
田中 宇徳

毎年3月に開催される神奈川県理学療法士学会（以下県学会）も今年度で第34回を迎えることができました。今年度は「地域に理学療法士が関わる意味 ～生命・生活・人生～」をテーマとして、横須賀・三浦地区の皆様が中心となり準備委員会を発足させ、日常業務の合間を縫って学会準備に勤まっております。私は神奈川県士会学術局学術大会部という県学会準備委員会のサポーター的な役割を担っている部局に所属しておりますが、そもそも県学会の準備委員会がどの地区になるのか、どのように発足されるのか、どう企画が進められるのかを知らない方も多いかと思います。

県学会準備委員会の地区選定は、県士会が定めている県内12ブロックに分かれて輪番制で行われます。今年度が横須賀・三浦地区、次年度以降は川崎北部→県央→横浜西部→湘南東部→鎌倉→川崎南部→県西→横浜南部→県北→横浜北部→湘南西部→横須賀・三浦・・・と順に廻ることとなります。そして準備委員会発足に向けて、学会長の選出から始まります。その後学会長より副学会長および準備委員長が選出され、また主要な係（学術・総務・財務・IT・運営）の係長や係員がブロック内から選出され、準備委員会が発足されることとなります。

更に学会当日のための運営スタッフも募集をしますが、こちらに関しては県内全域より募集をさせていただいております（今年度も現在募集中ですので、ホームページにてご確認ください是非ご登録をお願いします！）。学会運営のお手伝いをさせていただきつつ、発表や一部の聴講なども可能となります。

準備委員会・当日運営スタッフのメンバーは元々知った顔同士の方々もありますが、初見の方々や若手からの抜擢などもありますため、毎年有意義なブロック内外の地域交流の場の一環となっています。ですので、もし皆様が準備委員会や当日運営スタッフのお声がかかった際には是非とも

積極的なご参加をお願いしたいところであります。

次に県学会の内容に関するお話をさせていただきます。

現在県学会では企画や発表に関して、神奈川県士会の各部局や各施設のご協力のもと進めさせていただいております。一般公開講座は毎年テーマに沿った形で行われ、今回は「地域包括ケアからケアする社会へ ～幸手モデルの取り組み～」と題し、東埼玉総合病院 地域糖尿病センター センター長の中野智紀先生をお迎えして理学療法士が地域と関わるためのヒントをとなるような講演が行われます。また今年で3回目となる急性期～回復期～生活期による症例リレー報告もあります。企画はその他に各部局による口述発表やポスター展示のほか、研究支援部による研究活動方法の参考となるような講演や発表に関する相談窓口の開設、健康増進部による一般参加者向けの健康チェックの開設など、県士会活動が知れる機会となっております。

発表に関しては、今年度は県内より111演題が集まりました。毎年県学会の発表で特徴的なのが、経験年数が3年未満の若手理学療法士が演題数の75%以上になるところにあります。学会運営側としても、若手理学療法士の研究や経験におけるステップアップの場として捉え、自己研鑽の手助けとなれるよう努めております。それだけでなく豊富な経験のある方々も発表頂けると若手のお手本となりますので、発表いただけると大変ありがたいです。

最後になりますが、次年度の川崎北部が主体となる第35回県学会準備委員会も既に発足しております。今年度はご協力いただけない方々、発表エントリーされなかった方々、ぜひ皆様が神奈川の理学療法の発展、ならびに地域内外交流の場に神奈川県理学療法士学会をご活用いただければと思う次第であります。

平成28年3月12日（日）、パシフィコ横浜で皆様とお会いできることを楽しみにしております。

新年の挨拶



新年にあたり

林 克郎

あけましておめでとうございます。

皆様は新年をどのように迎えられたでしょうか？

365日対応の病院も増え、普段と変わらぬ新年を過ごされた方も多いのではないのでしょうか。回復期リハビリテーションという制度が無かった頃には理学療法士の人数も少なく、急性期病院などでごく限られた患者さんを対象に実施されているにすぎませんでした。最近のように早期リハの重要性が普遍化するにつれ、その対象者も拡大しつつあると思います。正月返上で業務に従事されていた皆様、お勤めご苦労様でした。

さて、昨年10月29・30日に第35回関東甲信越ブロック理学療法士学会は、2,000名を超える参加者をパシフィコ横浜にお迎えし、盛大に終えることが出来ました。非会員や他職種の方も参加されており、広く興味を持っていただけの内容であったものと推察しています。一部の会場では、サテライト会場も満席となりご不便をおかけしましたことありましたが、約2年に及ぶきめ細やかな準備と当日の運営に関わっていただいた会員の皆様の尽力により、大変充実した学会となりました。お手伝いいただいた皆様には心よりお礼申し上げます。次回の第36回学会は、本年9月23・24日に長野県で開催されます。その際に、本学会にて発表された優秀演題の表彰をさせていただきますのでご期待ください。

新年、平成29年に我々が注目すべき事柄としていくつかあげられます。平成30年の医療保険と介護保険の同時改訂に向け詳細が徐々に明らかとなり、様々な綱引きが活発化していくものと思います。これは当事者として最重要事項となります。また、約50年前に定められた、「理学療法士及び作業療法士法」の見直し作業が始まる可能性があります。これまでも時代にそぐわないとして何度か話題になっていましたが、大きな声にならず国政の場までには届いていませんでした。しかし今年は議論される可能性があります。我々の身分や業務に関する極めて重要な法律であり、実際に議論が始まれば同様に注目していく必要があります。さらに前号のニュースでお伝

えしましたが、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則の改訂作業が進んでおり、国会の場で審議されるものと思います。一方、平成29年は内外ともに不安定な要因を数多く抱えたスタートと言われています。もしかすると、このニュースがお手元に届いた時には、日本も総選挙で揺れ動いているかもしれませんので、予定通りに国会が開催されていないこともあると思います。重要な情報については皆さんに積極的に発信していきたいと思っておりますので、本会ホームページやニュースに注意してください。

最後に、平成29年度の本会の予算編成が進んでいます。本会では次年度より3年かけ卒後研修システムの再構築を図っていきます。(公社)日本理学療法士協会の動きも観ながら、会員にとって理学療法士にとって魅力ある目標や目的のわかりやすい研修システムを目指します。これに伴い本会の組織図が、大きく変わることもあるかもしれません。また、これに合わせ本会の事業全体を再評価し再編を進めます。またブロック組織の定着化については、リハビリ手帳の配布等を進めてきましたが地域により温度差が見られています。平成29年度より地域ケア会議等の運営が本格化します。その運営に一人でも多くの会員が関与できるよう、引き続き行政機関との連携を強めていきます。一方で、現在も行政機関との打ち合わせを積極的に行っていますが、そのほとんどは平日の日中であり、日常の業務を持っている本会の役員にとって日程調整が非常に困難となっています。皆さん貴重な有給休暇をそれに充てるなど、いろいろ工夫していただいておりますがそろそろ限界に近いようです。そのため本会にも理学療法士を雇用する案が出ています。事務局機能の強化、ブロック機能の強化の一方策として平日に動ける理学療法士の確保も検討していきます。

新年を迎え、関ブロ学会のお礼並びに今年の注目ポイントについてお示ししました。本年が会員の皆さんにとってより良い未来へのスタートとなるようお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

新人教育プログラム



平成28年度 新人症例報告会、盛況に終わる！

学術局 新人教育部 部長 木村 充広

去る12月4日（日）に神奈川県立保健福祉大学で開催された第3回新人教育プログラム研修会では、通常の講義と併せて新たに1～3年目を対象とした「新人症例報告会」が開催されました。発表者は事前に応募された12名の新人PTで、ほぼ全員が初めての発表でした。当日、会場には150名余りの聴講者参加者もあり、経験年数や境遇の近いPTの発表に熱心に耳を傾けていました。

3会場に分かれて行われた発表は、運動器系6演題、中枢系3演題、内部障害系、地域系、スポーツ系がそれぞれ1演題と多岐にわたり、各会場では熱心な質疑応答が展開されていました。中には職場の先輩が‘応援’に駆けつけ、はじめての発表に臨む後輩を暖かく見守る姿もあり、学会とは異なる雰囲気の中でのびのびと発表されていました。

一方、聴講者側からは、病態分析をはじめ、データの信頼性や評価方法に関する内容や隣接職種との連携の重要性など、鋭い意見が目立っていたほか、自らの経験に重ね合わせ失敗談や先輩から受けた指導など、幅広い建設的な意見が場を盛り上げていました。

今回発表された12演題の中にはさらに検証を重ねることにより深みが増し、貴重な報告となりうるもの多く含まれていました。症例報告会にとどまらず、症例を増やし関連学会での発表や活字に起こしてまとめ上げることが認定・専門理学療法士への第一歩になることでしょう。



表彰



平成28年度神奈川県公衆衛生協会長表彰を受賞

広報部

平成28年12月2日に横浜情報文化センターに於いて、林克郎氏が平成28年度神奈川県公衆衛生協会長表彰を受賞されました。おめでとうございます。



活動報告

総務部からの報告・案内・お願い 第37回定時総会および総会時特別講演会を終えて

新百合ヶ丘介護老人保健施設つくしの里 総務部 木下 尚久

去る6月12日（日）に横浜リハビリテーション専門学校8階講堂に於いて、（公社）神奈川県理学療法士会第37回定時総会および総会時特別講演が行われました。

総会の議事に入る前には、平成27年度に各賞を受賞された本会会員の紹介が佐藤史子副会長により行われました。神奈川県公衆衛生協会会長賞に炭孝昭氏、神奈川県保健衛生表彰知事表彰に斎藤幸弘氏、平塚保健福祉事務所所長表彰に大島奈緒美氏の3氏が受賞されました。おめでとうございます。

総会出席者は85名と少なかったのですが、執行部の提案により選出された松本肇議長の元、議案毎に真摯かつ活発な討議が行われました。本会の会運営に対する会員の意識の高さを改めて感じる事が出来ました。議事の締めくくりは、平成28年度（公社）神奈川県理学療法士会活動功労賞表彰（理事20年・10年、部長・委員長・係長10年）が行

われ、林克郎会長より受賞者の方々に表彰状の授与と写真撮影が執り行われました。おめでとうございます。

総会終了後は、半田一登協会長を講師としてお迎えし『平成30年医療介護報酬同時改定に向けて』をテーマに、1時間半の総会時特別講演が行われました。2年後に迫った医療介護報酬の同時改定に向けて理学療法士会員として“今この時”に何をすべきなのか…参加して頂いた133名のオーディエンスを前に、平成27年介護報酬改定における裏話なども含め、熱くそして時に力強く語って頂きました。会員の一人ひとりが現実を直視し未来に向かってどのような行動を起こすことが必要なのか…改めて自問自答する機会を頂いたような気がします。

末筆ではありますが、総会運営に多大なご協力をいただいた県士会事務局職員に感謝申し上げます。

平成28年度事業意見交換会開催のご案内

第34回神奈川県理学療法士学会の終了後に開催いたします。本会会員であれば何方でも参加できます。ぜひ多くの方に参加して頂き、本会の事業について活発な意見交換が出来ればと思います。奮ってご参加ください。

開催日時：2017年3月12日（日） 18：00～20：00

会場：『ベイブリッジカフェテリア』パシフィコ横浜6階

会費：3,000円（ドリンク飲み放題と軽食）

*当日会場受付にてお支払いください。

その他：事前の申し込みは必要ありません。

問合せ先：県士会事務局（石川）

TEL 045 (326) 3225

会員施設アンケートのお願い

9月に会員施設宛にアンケートを郵送し調査を実施してまいりました。現在の回答施設数は363施設（47%）です。締め切りを3月31日までに延長いたしました。ご回答がお済でない施設はご回答をよろしくお願ひします。アンケートの内容・アンケート用紙・回答方法は士会ホームページの「会員施設アンケート」のバナーをクリックしてご確認ください。

問合せ先：理事 相馬光一（神奈川県リハビリテーション病院）

TEL 046 (249) 2545

e-mail:soma@pt-kanagawa.or.jp



(公社) 神奈川県理学療法士会 災害対策委員会 講師派遣事業報告 第3回やまとリハビリテーション連絡会に参加しました。

講師担当 (公社) 神奈川県理学療法士会災害対策委員会 西澤 茂子

平成28年11月18日(金) 南大和クリニックにて行われた「やまとリハビリテーション連絡会」の中で災害対策に関する講話の機会をいただきました。

やまとリハビリテーション連絡会は、大和市におけるリハビリテーション関連職種のネットワーク構築と他職種連携を目的に今年発足された会です。発足されたばかりにも関わらず今回が既に3回目の開催であることからわかるように、毎回7～8施設のPT、OT、STや看護師などが集まり情報交換を行うなど活発に活動されています。

今年度は他施設、他職種との交流を深めるために施設紹介や取り組みの紹介を主に行っていて、今回は約70名が参加され約1時間半に渡り講話や質疑応答などが積極的に行われました。南大和病院からは病院および医療関連施設の紹介、大和徳洲会訪問看護ステーションからは施設の紹介や徳洲会リハビリテーション部会の取り組みが紹介されました。そして災害対策委員会からは「災害支援におけるセラピストの役割」を中心に講話させていただきました。

4月14日に発生した熊本地震では災害対策委員2名が神奈川県JRATの一員として熊本JRAT現地災害対策本部でロジスティックス(=業務調整委員)として活動を行いました。その時の活動報告や避難所の状況、支援から見てきたこれからの課題などについて講話致しました。

災害対策の一環として平時より関係機関とリハビリスタッフが連携を取っていることが重要と考え、災害対策委員会では地域防災をキーワードに災害支援ネットワークの構築を目指した研修会の開催や、災害対策キャラバンを行っています。やまとリハビリテーション連絡会の目的にも合致していて、連絡会の活動が地域防災にも繋がる意義の高い活動だと感じました。また、これから災害対策や他職種連携及び関連職種のネットワークの構築を目指している他の地域の参考にもなるのではないかと思います。

災害対策委員会では災害支援対策関連の勉強会、研修会の講師派遣を承っております。興味のある方は積極的に声かけ下さるようお願い申し上げます。



活動報告

(公社) 神奈川県理学療法士会 災害対策委員会 県央ブロック災害対策キャラバンが開催されました。

災害対策委員会 松田 梓

去る平成28年11月27日（日）介護老人保健施設アゼリアにおきまして、「県央ブロック災害対策キャラバン」が開催されました。

災害対策キャラバンは毎年、災害リハビリテーション支援ネットワークを構築していくことを目的に開催しており、今回はその第5回目として県央ブロックの方を対象として開催しました。

講師には海老名市より田代 貴之氏（海老名市役所市長室危機管理課危機管理係）、押方 信一郎氏（海老名市保健福祉部健康づくり課予防係）、秋山 泰大氏（湘陽かしわ台病院リハビリテーション科）を迎え、海老名市における災害時の危機管理体制や医療支援体制、災害時を想定した平時からの取り組みや連携についてお話しいただきました。

田代氏からは海老名市の危機管理について、「危機管理とは？」という基本的な事項から、主に「公助」の立場から災害時に関わる各部署の役割についてお話しいただきました。押方氏からは海老名市における災害時医療救護体制の強化について医師の体制から海老名市独自の取り組みであるトリアージ訓練の実際、今後の課題や平時の訓練の重要性についてお話しいただきました。秋山氏からは災害時における理学療法士の取り組みから海老名市の災害時協力病としての行政との連携や地域での取り組みについてお話しいただきました。

いただきましたブロック長の湯田健二先生、エリアコーディネーターの中橋真弓先生、会場の手配・調整を引き受けてくださいました介護老人保健施設アゼリアの方々、当日の運営を手伝っていただいたスタッフの皆さまも本当にありがとうございました。



今後も本キャラバンをきっかけとした、災害リハビリテーション支援ネットワークの基盤づくりとして各ブロック・地域ごとの行政機関や保健センターなどとの連携を深めていけるようにしていきたいと考えています。次回は平成29年1月26日（木）より神奈川県立保健福祉大学にて「横須賀三浦ブロック 災害対策キャラバン」を開催する予定です。また来年度も災害対策研修会と各ブロックを対象にした災害対策キャラバンを予定しています。より多くの方々のご参加をお願い致します。



今回も多くの方々にご参加いただき、本当にありがとうございました。また事前の打ち合わせから積極的なご協力



ワークライフバランスの取り組み

～桜ヶ丘中央病院の仕事と 育児の両立への取り組み～

桜ヶ丘中央病院 金田拓人氏 川越潤一氏
(インタビュー 熊切博美)

会員ライフサポート部
活動報告 第58報
職場環境を考える

現在全国で10万人の理学療法士がいる中、21歳から35歳の若い世代の理学療法士は7割となっています。様々な施設で産休・育休を取得する職員がおり、両親共働きで職場復帰する人も増えてきています。その中で、病院全体でワークライフバランスに取り組んでいる桜ヶ丘中央病院にお話を伺いました。

Q1、病院紹介をお願いします

A1. 当院は大和市にある171床の病院です。
一般病棟と障害者病棟と回復期病棟のケアミックスで訪問リハビリや外来リハビリも実施している病院です。

Q2、職員紹介をお願いします

A2. 常勤理学療法士56人
作業療法士15人
言語聴覚士15人が在籍しています。
既婚者20人 育休4人 15人が子育て中です。

Q3、職員の産休、育休の取得状況は？

A3. 産休育休に関しては規定期間の取得が可能になっています。
現在4人のスタッフが育休中となっていて基本は満期まで取得予定です。しかし、育休に関しては取得日数それぞれで家庭の状況（金銭面等）に応じて相談の上で本人の希望で早めに戻るスタッフもいます。

Q4、職員が子育てしながら働きやすい環境をどのように整備されていますか？

A4. 院内環境として、当院は院付属の託児所があり、勤務年数や家庭の状況などの項目を満たしている場合に利用する事が可能となっています。現在3名のリハ科スタッフが利用しています。短時間勤務（時短勤務）は育休明けに大部分のスタッフが利用しており、復帰後規定に沿って利用している状況です。また勤務中に急な子どもの体調不良がある場合には、子どもの体調などを考えると業務が進められないなどの場合がありますが、小児科があるため診察への早い対応が可能になっています。

リハビリテーション科として、育休明けから復帰直後の対応はまず業務の見学を行ってまいります。そして、時短勤務のスタッフは単位数の上限を減らすこと、介助量の少ない患者を見ること、臨床に不安のある新人についてもらい補助をしてもらうことで徐々に仕事に慣れる

ことが出来るように対応をしています。

また、チーム制になっているため各チーム編成にあたり、子どものいるスタッフを分散させています。そうすることで、子どもの急な体調不良で保育園へ迎えに行く場合の業務のフォローを、周りのスタッフが行いやすいようにしています。

当院は回復期病棟もあり365日稼働の為、日曜出勤が必要になります。土日祝日は子どもを保育園に預けることができないため、必然的に若いスタッフの日・祝日出勤が多くなるがありました。そのため、病院の協力を得て、共働きのスタッフが日・祝日出勤に託児所に子どもを預けることが出来るように対応してもらっています。そうすることで共働きのスタッフと他のスタッフの差を軽減しています。

リハビリ個別業務以外の会議などは、これまで業務時間外や遅い時間に行っていました。しかし、少しでも子育て中のスタッフが参加して意見を聴取出来るように、一部は昼の時間で開催しています。

教育面では、子育て中でも、研修などに参加したいという意欲的なリハスタッフもいます。他スタッフと同じ対応が出来るように、勤務での研修となる場合には託児所の使用も考慮して対応しています。実際に「がんリハの研修」には、子どもを当院の託児所に預けて参加していただきました。

また4歳以降の子どもは託児所だけでなく幼稚園に通うことも可能です。しかし、幼稚園の場合、朝に子どもを送ってからでは出勤時間に間に合わないことがあります。その場合には子どもを一時的に当院の託児所に預けて、保育士が幼稚園バスの送迎に対応することが出来ます。現在も2名ほど利用しています。

全体として、育児と仕事の両立への対応が出来るようになったのは、リハ科の人員を増やせたことが大きいと考えています。人員が増えたことでスタッフそれぞれの家庭や体調を踏まえた対応が出来ます。子育てをしているスタッフも同様です。

子育て中のお母さんだけでなく、お父さんも子どもの体調不良時には、仕事を早退して子どもを迎えに行くことも出ています。また今年からの地域支援プロジェクトチームの活動の中で子育て中のお母さんたちへの支援も行っていて、当院の子育て中のスタッフが活躍できる場も出てきています。

また、全スタッフには次年度の方針発表時に、家庭をもつスタッフへの理解に関する内容を盛り込んで伝えています。しかし、決して一方通行のものではなくお互い「持ちつ持たれつ」の関係をイメージしてもらうようにしています。

Q5、管理者の立場として子育てしながら働くことをどのように考えていますか？

A5. 子育てセラピストが在籍することについてメリット・デメリットで考えたことがないので難しいですが、メリットとしては多少の慣らし期間は必要なものの、ほぼ即戦力として復帰してもらえるところではないかと思いません。

デメリットとしては子供の体調等で急遽休まないといけなくなる場合に出勤者数がマイナスになってしまうことでしょうか。フォローできる体制であればよいでしょうが、人間的に厳しいところであれば対応に苦慮する場合もあるかと思えますし、子育てスタッフ自身にとってそれが後ろめたくなってしまうことはデメリットにつながってしまうように思います。

現在子育てをしているスタッフが2割近くいて、ほとんどが夫婦共に働いている状況です。若いスタッフも多く在籍しており、これからどんどん増えていくことが予想されます。産休育休に入ることで一時的に人手としては減少してしまいますが、現在まで育休明けで在勤しているスタッフが多く、復帰後は時間の制約がある中で、効率よく働かれています。「何時までに迎えに行かなきゃいけない」、「いつまでに帰らなきゃいけない」と制約がある分、勤務内でしっかり仕事を行う姿勢は特に際立っていると感じます。人員が増えたことで業務負担の分散もでき、働き易くなっています。しかしその反面、人員を増やしていくことで管理側としては成果が求められます。まずはしっかりと時間内で業務を行って、残業を減らすことが必要と考えています。その中で、子育て中のスタッフの業務姿勢は大きな見本となっていると思います。また全体の残業を減らせれば子育てスタッフ以外との業務差を感じなくなるとも考えています。

回復期病棟では新人が多くなる傾向が当院でもありま

す。育休後に、復帰して職場に戻ってきていただけることで、新人が多い当院では、教育に当たってもらえることなど、経験があることで出来る業務は沢山あります。女性が半分以上を占めている状況で若い20代のスタッフも多くいます。今後の不安などもあると思いますが、先輩が沢山いることで安心感はあるのではないかと思います。また長く勤めていただくことで、新たな託児所の範囲の拡大などが出来ると思います。スタッフがいないとリハビリは成り立たない仕事です。そのためにも色々な状況下で働ける環境づくりはスタッフを維持していくためには必要であると考えています。

Q6、今後の課題などはありますか？

A6. 復職に関して院内の託児所が必ずしも全員使えるわけではない点、子育て中に復帰するスタッフが必ずしも託児所の利用を希望するわけではない点、そもそも現状として保育園または託児所を利用できなければ復職も出来ないという大前提があることが課題であり問題であると思えます。

また、男性スタッフの育休取得は前例もなく、今後そのような事例があった場合の対応がまだ不十分になっていることです。

産休育休制度や時短勤務などについては周知がまだ不十分に感じています。また復帰後の対応方法がまだ確立していない課題もあります。

スタッフの業務量など、一方が負担するのではなく、スタッフ全員が相互に支え合える環境ですね。子育てに限らず、職員全体のワークライフバランスを真摯に考え、そして実際に取り組んでいて、本当に参考になりました！ありがとうございました！



新婚さんのスタッフにも伺いました。これから育休、産休、子育てと仕事の両立を考えると、安心または不安なことがあれば教えてください。

現在の職場では、産休・育休を経て復帰し、頑張っている女性スタッフが先輩・後輩ともにいるため、両立していけるイメージは持ちやすい環境だと思います。

しかし、新婚生活を送るなかで、環境も変化し、家事もこなすことは大変です。

今現在は業務が終わらずに帰りが遅くなったりすることがあるため、主人と協力して買い物や晩御飯の支度を行って

ます。長く勤めている職場なので、結婚して共働きをしているスタッフも多いため、男女問わずに理解者やアドバイスをくれる方も多く助かっています。これから、産休・育休を迎えるのに1年間で復帰してくることは保育園の待機等のニュースを耳にすると難しいのかなあという印象ですが、その中で院内に託児所があることは大きな安心感です。

不安なことは、今と同じような仕事が出来なくなってしまうのではないかということです。主任という立場で、今までしていたような業務内容がこなせるかどうか、万全な体調で、安心して仕事を続けることができるかどうかです。上司からは、いつそうなってもいいように後輩の育成や業務の引継ぎ

等を促されていますが、まだ葛藤もあります。また、復帰した際には1年のブランクがあるなかで、自分自身の技術に対する不安も出てくると思います。自分のライフスタイルや、価値観に変化が出てきたときに、仕事に対する姿勢を自分自身が誇れる形で実現していくことができたら素敵だと思います。

新婚さんの不安を直接聞く機会があまりなかったので、とても新鮮でした。色々な方々に、このような不安があっても仕事を続けたいと思う気持ちを、知っていただきたいですね。本当にありがとうございました。



がんの治療に幅広く
対応した、アフラック
のがん保険。

生きるための
がん保険 Days

NEW/
がんを経験された方へ
生きるための
がん保険
寄りそうDays



はじめてアフラック

お問合せ先

募集代理店

国際保険株式会社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-15-5 DSビル4F

0120-5931-98

引受保険会社

Aflac

首都圏総合支社
東京都新宿区西新宿1-23-7
新宿ファーストウエスト17F
Tel.03-3344-1580

重大疾病[※]にも強くなった。

※「がん・脳卒中・急性心筋梗塞」(三大疾病)のことを指します。

ちゃんと応える
医療保険
EVER

ちゃんと応える
医療保険
やさしいEVER

(特約を付加した場合)



月	日	内容	場所
9月	7日(水)	第6回常任理事会	事務所
	20日(火)	第4回事業運営会議	事務所
	21日(水)	神奈川県医療専門職連合会、理事会	臨床工学技士会事務所
	22日(木)	(公社)日本理学療法士協会、オリパラ対策本部会議	田町カンファレンスルーム
	25日(日)	災害対策委員会研修会	事務所
	28日(水)	管理者育成推進委員会、急性期担当者会議	事務所
	29日(木)	第35回関プロ学会準備委員会	横浜リハビリテーション専門学校
10月	2日(日)	東京都士会主催、関東甲信越ブロックオリパラ研修会	田町カンファレンスルーム
	4日(火)	神奈川県三士会長会議	本会事務所
	5日(水)	第7回常任理事会	事務所
	13日(木)	神奈川県介護人材確保対策推進会議	ロイヤルホール横浜
	13日(木)	第35回関プロ学会準備委員会	横浜リハビリテーション専門学校
	18日(火)	第5回事業運営会議	事務所
	21日(金)	小川かつみ後援会報告会	TKP品川駅カンファレンスセンター
	28日(金)	第35回関プロ学会前日準備確認	パシフィコ横浜
	29-30日(土-日)	第35回関プロ学会	パシフィコ横浜
	31日(月)	神奈川県議会議長就任祝賀会	ロイヤルパークホテル
	11月	2日(水)	神奈川県立ち入り検査対応
2日(水)		第8回常任理事会	事務所
7日(月)		学術局理事会	事務所
7日(月)		自民党横浜市支部連合会	横浜ベイサイドホテル東急
15日(火)		第3回理事会	事務所
16日(水)		神奈川県医療専門職連合会、公開セミナー、理事会	労働プラザ
17日(木)		神奈川県病院医療関係団体連絡会	神奈川県民ホール
21日(月)		地位向上委員会	事務所
22日(火)		東京オリンピック・パラリンピック準備委員会	事務所
24日(木)		第35回関プロ学会準備委員会	横浜リハビリテーション専門学校
28日(月)		地域組織対策本部会議	事務所
30日(水)		神奈川県保健福祉局高齢福祉課訪問	日本生命横浜本町ビル





Gift

オリジナルカーシート
(150センチ程度まで)

日本ウイール・チェア株式会社
〒188-0014 東京都西東京市芝久保町2-22-31
TEL 042-463-1511 FAX 042-463-3730

そのほか当社では
福祉用具レンタル・販売
も取り扱っています





NIHON WHEELCHAIRS
<http://nwc-kurumaisu.com/>

横浜そごう9階

60歳以上の高齢者単身・夫婦世帯が安心して居住できる賃貸住宅

サービス付き高齢者向け住宅のご紹介

～神奈川県内200件以上より、健康にお暮らし頂ける住宅をご提案～



【営業時間】10:00～20:00

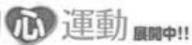


高齡者住宅募集センター



神奈川ロイヤル株式会社

ロイヤルハウジンググループは
全社をあげて





第34回 神奈川県理学療法士学会 —プログラムと準備の進捗状況 (3)—

昨年4月より第34回神奈川県理学療法士学会準備委員会を結成し、約9カ月かけて一つ一つ準備を進めて参りました。県士会ニュース誌上では、今回が学会開催前の最後の報告となります。

学会テーマ

「地域に理学療法士が関わる意味～生命・生活・人生～」

口述・ポスター発表111演題

今回の学会は本来の学会の有り方を思い出し、発表中心にプログラムを構成しました。特に口述発表の演題数を増やし時間的にゆとりのあるプログラムを設定しました。

学会員の皆様から111演題という多くの演題登録をいただきました。日頃の臨床経験から生まれた課題や疑問など、発表者と共に皆で考え、積極的な意見交換を行い、是非それぞれの現場で、明日からの臨床につなげていただきたいと思います。

その他の企画

1) 県民公開講座

「地域包括ケアからケアする社会へ～幸手モデルの取り組み～」
東埼玉総合病院 中野 智紀医師

地域医療の第一線で活躍されている中野先生より、医師の立場から様々なお話をさせていただきます。一般県民や関連職種の方々にとっても、興味・関心の高い分野を取り上げていただく予定です。

2) 地域症例リレー

急性期・回復期・生活期（在宅）にわたって、脳血管疾患の発症から在宅療養までの流れを追ったリレー形式で、各々のフェーズのPTに発表していただきます。特に経験年数4年未満の会員の方々に、「PTの関わる意味と実際の役割」を想い描いていただき、日常業務の一助としていただければ幸いです。

生活期に向かうに従い、ご本人・ご家族のニーズは、より具体化して行きます。また多様化するニーズへの取り組み、活かされていない機能再獲得のチャンスや、環境への調整的適応、修正的家族指導、多施設・多職種連携の見直しなど、「調整や修正、そしてチャレンジ（隠れた能力の開発）」が求められます。

3) 県士会活動紹介

県士会活動は通常行われている各部局行事、県士会ニュース等により会員に案内、周知されていることと思います。しかしながら、昨年度より開始されたブロック活動を始めとして実施されている様々な県士会の活動について

は皆さんで存知でしょうか？普段なかなか触れることのない内容が満載であり、大変貴重なお話を伺える機会になると思います。

4) 健康チェック（一般県民向け）

事前参加登録について

学会当日、受付の円滑な運営のため、事前参加登録のご協力をお願いします。また、事前登録をして頂くことで参加費が割安になります。

1) 事前登録費：2000円

2) 当日参加費：3000円

登録は協会HP内の会員専用マイページから行うことが出来ます。詳細は学会HPをご参照下さい。

尚、学会当日には、協会会員証をお持ち下さい。

その他、事前登録が必要となるもの

1) 当日運営スタッフ

学会当日の運営にご協力いただける会員を募集いたします。

2) キッズルーム（託児所）

初めての方でも安心してご利用いただける環境です。お子様のいる方も、学会参加をあきらめることなく、キッズルームをご活用いただければと思います。

※募集期間などの詳細は、簡易プログラム集と学会HPをご参照下さい。

最新情報は今後も随時、更新して参ります！

学会に関する最新情報は、学会HPにて随時更新して参ります。近日中に簡易プログラム集も皆様のお手元に郵送される予定ですので、併せてご利用いただければと思います。多くの一般県民、他職種の方々にもご参加いただける学会にしたいという思いであります。ぜひ、身近な方々にもお声掛けいただけますよう、よろしく願いいたします。

<学会HP：<http://congress-kpta.jimdo.com/>>

【開催日時】平成28年3月12日（日） 9：00～17：30

【開催場所】パシフィコ横浜 3階

※終了後、同会場にて事業意見交換会（レセプション）も予定されています。

当日運営スタッフの募集に関して

上記にもある通り、今年も学会当日の運営をスムーズに行うため、当日運営スタッフを募集しております！

学会活動や県士会活動に少しでも興味を持っている方、この機に一緒に大会を盛り上げていきませんか！？ぜひ、皆さんのお力をお貸し下さい！

研修会・講習会



●他団体

国際医療福祉大学大学院公開講座 乃木坂スクール #18「力学的視点から捉えた装具療法」

片麻痺者のリハビリテーションにおける装具と運動療法の役割を力学的視点から解説します。近年、使用が増加しているロッカー機能を補助する装具を中心に装具の機能と歩行の関係を3次元動作分析装置による動画とビデオを併用してわかりやすく解説します。臨床現場で働く理学療法士が装具の選択や調整、装具を使用した歩行練習をする際に活用できる知識を伝えることを目的としています。

日時：2017年2月26日(日) 10:00~16:00
会場：国際医療福祉大学大学院 東京青山キャンパス
 (東京都港区南青山1-3-3 青山一丁目タワー5F)
 (地下鉄銀座線・半蔵門線・大江戸線青山一丁目駅3番出口から徒歩2分)
講師：山本 澄子(国際医療福祉大学大学院教授)
 溝部朋文・中西和正
 (横浜市立脳卒中・神経脊椎センター理学療法士)
司会：萩原 章由
 (横浜市立脳卒中・神経脊椎センター理学療法士)
受講料：10,000円
 ※本学修了生・卒業生の方は別途事務局へお問い合わせください。

定員：100名
対象：理学療法士
お問合せ先：国際医療福祉大学大学院 東京青山キャンパス
 乃木坂スクール事務局
 〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3
 青山一丁目タワー4F
 TEL：03-6406-8621 FAX：03-6406-8622
 E-mail：nogizaka@iuhw.ac.jp

○お申し込みはホームページの申込フォームが便利です。
<http://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/nogizaka/>
 ○本講習会は、公益社団法人日本理学療法士協会の専門・認定理学療法士制度ポイント認定講習会です。
【認定領域】神経理学療法専門分野神経(全領域) /
 生活環境支援理学療法専門分野生活(補装具)
【認証ポイント】5ポイント

第12回神奈川内部障害リハビリテーション研究会 急性期から在宅まで、心臓リハビリテーションにおける現状および最新のトピックス

テーマ：心臓リハビリテーション
内容：第12回は心臓リハビリテーションをテーマとした内容となっております。現在、心臓リハビリテーションは大きな広がりを見せております。それゆえ病院と在宅という2つの現状や、最新の情報を知っておかなくてはならないことは、日頃皆様も感じていることと思います。今回は2人の先生を講師に迎え、明日から現場で役立つ実践的なものを提供していきたいと思っております。皆様奮ってご参加ください。
日時：平成29年2月4日(土) 18:30~20:30
 18:00~ 受付開始
会場：ウィリング横浜
 (京浜急行/横浜市営地下鉄「上大岡駅」から徒歩3分)
<http://www.yokohamashakyo.jp/willing/>
受講料：1,000円(資料・会場費)

講師：神谷健太郎先生(北里大学病院)
 小林 琢先生(ゆみのハートクリニック訪問リハビリテーション部)
定員：募集定員70名
申込締切：平成29年1月27日(定員になり次第終了)
注意事項：参加を希望の方は、下記のメール宛てに登録をお願いします。
 1.氏名
 2.所属施設
 3.経験年数(すでに本会参加歴のある方は不要)
 メールの題名を「第12回神奈川内部障害リハビリテーション研究会」と明記の上、送信してください。
お問合せ先：神奈川内部障害リハビリテーション研究会事務局
 (湘南鎌倉総合病院 桑島泰輔)
 e-mail: naibusyougai2011@yahoo.co.jp

研修会・講習会



●他団体

【6日間で学ぶ】評価・治療の為の骨・筋の触診セミナー

テーマ：6日間で療法士の“基本”であり評価・治療の“土台”となる触診を学びます

内容：1か月目体幹編2日間

- ・階層的触診の方法
- ・脊柱・骨盤などの体幹を中心とした触診・関節モビライゼーション・筋膜リリース
- ・評価の流れ、報告書の書き方、症例検討

2か月目上下肢編12日間

- ・上下肢を中心とした触診・関節モビライゼーション・筋膜リリース
- ・症例検討

3か月目上下肢編22日間

- ・上下肢を中心とした触診・関節モビライゼーション・筋膜リリース
- ・症例検討、復習

※詳細な触診部位はHPからご確認ください。

開催日時：※参加できない回がある場合はその回の講義動画を配信致します。

<第1期>

1か月目 平成29年1月14、15日

2か月目 平成29年2月4、5日

3か月目 平成29年3月4、5日

※都合がつかない場合は4月以降の日程に振り替えることが可能です。

<第2期>

1か月目 平成29年4月1、2日

2か月目 平成29年5月6、7日

3か月目 平成29年6月3、4日

会場：ウィリング横浜 ゆめおおおかオフィスタワー

〒233-0002 横浜市港南区上大岡西1-6-1

ゆめおおおかオフィスタワー内

(<http://www.yokohamashakyo.jp/willing/s-14-1-1.html>)

受講料：1日のみ 12,000円

6日間全てお申込みで 59,800円(テキスト代含む)

講師：大塚 久 理学療法士、山崎 瞬 理学療法士

定員：24名限定

お申込み：セミナーHP よりお願いします。

<http://lts-seminar.jp/syokushinbasic/>

お問合せ先：療法士活性化委員会 大塚

e-mail: lts-info@lts-seminar.jp



あなたの生活をサポートします



(有)木村義肢工作研究所

横浜市栄区安間三丁目40番5号 TEL045-892-5424 FAX045-894-2560
<http://www.kimura-gishi.co.jp/>



日本理学療法士協会会員証の運用について

会員の皆様方のお手元には「日本理学療法士協会 会員証」が届いていると思います。



今後、神奈川県理学療法士会や日本理学療法士協会の主催事業の参加受付の際に必ず必要になります。携帯する様にお願いします。

紛失・破損等による再発行は、有料（500円税別）となりますので、ご注意ください。

*再発行の申請については、日本理学療法士協会のホームページをご覧ください。

神奈川県理学療法士会や日本理学療法士協会の主催事業の

申込をする際には、日本理学療法士協会ホームページの「マイページ」からの申込になります。

「マイページ」にログインするには、ID・パスワードが必ず必要となります。

*「ID・パスワード再発行」は「マイページ」（「ログインできない方は「こちら」をクリック）から再発行申請手続きを行って下さい。

【注意事項】

- ・再発行申請には個人のメールアドレスが必須となります。
- ・再発行申請後に仮受付メールが送信されます。仮受付メールに記載されているURLリンクを開いて、申請を完了して下さい。
- ・メール受信拒否設定されている方は『@ml.japanpt.or.jp』の受信を許可して下さい。

（公社）神奈川県理学療法士会
事務局長 相川 浩一

楽天カードへの手続きはお済みですか？

☆協会指定年会費決済クレジットカードが楽天へ変わりました

☆楽天カードの主な特徴と機能

- 「楽天カード」はカード申し込みがネット上からでき、永年年会費無料。
- 会費（初年度除く）の自動引落しが可能です。
- 書籍購入（一部割引）等が可能となります。

*詳細については、日本理学療法士協会ホームページをご覧ください。

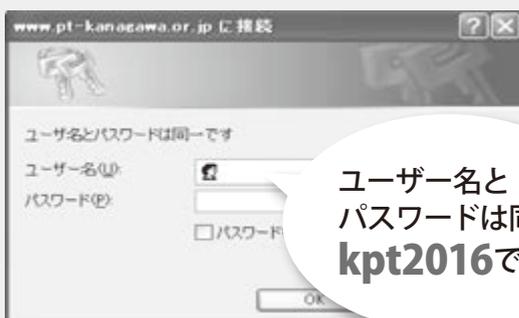
～申し込み方法～

①楽天カードへの新規申し込みを日本理学療法士協会ホームページの「会員専用ページ」より申し込み下さい。

*楽天カードを既にお持ちの方は、所定の手続きをしますとお手持ちのカードが決済カードとして利用可能です。日本理学療法士協会ホームページより「会員専用ページ」にてご確認ください、手続きを行って下さい。

（公社）神奈川県理学療法士会
事務局長 相川 浩一

アクセス認証が必要です！



本会ホームページの会員ページの（認証あり）と表示のあるサイトの閲覧時にはユーザー名とパスワードが必要です

パスワードは1年毎に変更になります

ご不明点は、トップページの「お問い合わせ」からお寄せ下さい

担当：ウェブサイト管理部

スポーツ現場 の 独り言 (10)

2016年は4年に1度のオリンピック・パラリンピックイヤーでしたが、わたくし夏はパラリンピック水泳日本代表の仕事でリオに行って参りました。

1月末にパラリンピック水泳チームのサポートに加わることが決まり、4月頭の代表合宿から合流したのですが、やはり最初は現状分析ということで選手コーチからのヒアリングと各種身体評価というところからスタートしました。その結果、兎にも角にも夏までに可能な限り陸上トレーニングの機会を作ろうということで週2回ナショナルトレーニングセンターのトレーニング施設を使ってトレーニング指導を実施しました。途中、ドイツ遠征と国内大会、また直前トロント合宿を挟んで9月のリオ本番に臨んだわけですが、この陸上トレーニングに関しては本大会直前まで行い、結局ギリギリまで基礎筋力の向上に取り組むことになります。

わたくしは3月までは水泳オリンピック代表にスタッフとして関わってきましたが、その時にはここまでトレーニングに携わることは無く、むしろコンディショニング調整目的のトレーニングや徒手的対応を主にしてきました。それは、すでにトレーニングは十分に積まれており、その方向性を整えることが私に課せられた課題だったからです。

一方、パラ水泳代表に関わってみると、その前提となるトレーニングが不十分であり、逆にコンディ

ショニング調整だけで戦っているという印象だったのです。勿論、陸上トレーニングしようにも上肢欠損や脊損で水泳に向けたトレーニングをどのようにすればよいかわからないという選手・コーチの声も当然あり、だからこそ理学療法の知識と知恵が活かされなければならないという思いも強く、様々なアイデアを駆使してトレーニングを実施しました。

競技結果としては金メダルを獲得することができず、次の東京に向けて大きな宿題が残った形となりましたが、それだけに選手スタッフ全員が危機感をもって4年間取り組むことになると思います。

パラ水泳を例にすると、大きな課題は競技人口です。健常者の団体である日本水泳連盟の登録選手数は10万人以上ですが、日本身体障がい者水泳連盟の登録は600人、日本知的障害者水泳連盟も600人です。この少なさの背景には、日本独特の「障がい者として障がい者スポーツに参加したくない」「できれば健常者の大会に出たい」という心情があるとされています。このような状況を打破するためにも、パラ水泳日本代表が度肝を抜くくらいのパフォーマンスを2020年に披露して、憧れの存在になれるように頑張ってもらいたいと思っています。

わたくしの連載は今回で終了となります。最後に神奈川県士会の皆さんにお願いがあります。どうか、皆さんの周りにいる患者さんや障害を持たれている方々にスポーツの楽しさを伝えてください。そして、できれば一緒に競技現場に来てください。そうするだけで、日本の競技スポーツの人口は更に増え、スポーツが文化として益々定着していきます。そして、我々理学療法士のスポーツにおける価値も高まると思います。

ご愛読ありがとうございました。

小泉 圭介

編集後記

この時期の風物詩のようにになっている流行語の発表と同時期に、たまたま見た女子高生の流行語ランキングには軽く衝撃を受けました。普段、若い世代のいる環境で仕事をしているのですが、彼らとの会話の中で発表された言葉は出てきたことはなく、ほとんど初耳のものばかりでした。「冗」や「はげろ」など、もともとの言葉が持っている意味を何回か変化させて使用していたり、「BFF」のように普通に言えばよいことを略してみたりする用法を見て、意味が理解できないと困惑するのと同時に、高校生の想像力の豊かさに感心して笑いが出ました。

こういう言葉を使っている人達は、そのコミュニティの中で通用する共通言語を持ち、その言語が表現する感情を共有できることが楽しいのだとすると、一般的にはわけのわからない言葉でのコミュニケーションも一概に悪いとは言えないのではないかと思います。医療現場でもある職種にしかわからない表現ではなく、異なる職種間で共通に理解できる言葉を使うことで、共通の方向性を見出せることは、目標達成につながるやりがいを感じる喜ばしいことですし、これが“神ってる”状況なのかもしれません。(渡邊)

次号の原稿締め切りは平成29年**3月6日**です。

国際医療福祉大学小田原保健医療学部(ニュース編集部宛)

news-hensyubu@pt-kanagawa.or.jp

〈原稿は添付ファイルでお願いいたします〉

※原稿受取確認を希望する場合は開封確認機能をご利用ください。円滑な編集作業へのご理解とご協力よろしくをお願いいたします。

◆ニュース編集部員◆

担当理事：坪内 敬典 (茅ヶ崎リハビリテーション専門学校)
 部長：渡邊観世子 (国際医療福祉大学 小田原保健医療学部)
 部員：今井 祐子 (国際医療福祉大学 小田原保健医療学部)
 金子 達也 (国際医療福祉大学 小田原保健医療学部)
 鈴木 啓介 (国際医療福祉大学 小田原保健医療学部)



SP-i

義肢・装具・整形靴・特殊靴など

製作から修理、調整等

湘南義肢研究所

横須賀市小川町27 TEL:046-822-6722

<http://www.sp-i.net/>